

事業評価シート

担当課・室長：環境保全対策課長

事業名	東アジア酸性雨モニタリングネットワーク(EANET)の構築、拡充・強化
上位施策名	酸性雨等に係る対策
1 事業の概要	<p>東アジア地域では、これまでのところ一部地域を除き、明確に酸性雨による被害を受けているとの報告は行われていないが、今後、都市化、工業化の進展に伴い汚染物質排出量が飛躍的に増大するとの予測を踏まえれば、深刻な酸性雨被害が生ずることが懸念されている。</p> <p>我が国のみの努力ではそのような酸性雨問題を防止することができないため、国際協調による東アジア地域全体の酸性雨対策の枠組み作りを目指す必要がある。東アジア酸性雨モニタリングネットワーク(EANET)では、共通の手法を用いた相互に比較可能で信頼性の高いデータを整備、評価することにより、東アジア地域における酸性雨問題の現状と将来について参加各国間の共通の認識を醸成すること等を目指す。</p> <p>また、そのために、外務省をはじめとする国内関係省庁や国連環境計画等の関係国際機関と緊密な連携を図っている。</p>
2 進捗状況	<p>1993年より1997年までに4回の国際専門家会合を開催し、東アジア地域における酸性雨問題への取組を検討、EANETの構築等を提言。</p> <p>1998年3月の第1回政府間会合にて、1998年4月から約2年間にわたるEANETの試行稼働を決定。試行稼働の主な成果は以下のとおり。</p> <p>10か国38地点にて、各国共通の手法による酸性雨モニタリングを実施</p> <p>東アジア地域の実情を踏まえてモニタリングガイドライン、技術マニュアル等の技術文書を見直し・改訂。</p> <p>モニタリングデータを取りまとめた「データ報告書」及び「東アジア地域の酸性雨モニタリングの状況報告書」を作成。</p> <p>データの質を向上させるための精度保証・精度管理(QA/QC)を推進し、精度管理目標に達したサンプルが78%から95%に増加する等、着実な向上を達成。</p> <p>2000年10月の第2回政府間会合にて、試行稼働期間中の活動が成功であったと評価し、モニタリング活動を恒久化する本格稼働への移行を決定。</p>
3 評価	<p>我が国のイニシアチブにより進められてきたEANETの試行稼働が政府間会合において成功したと評価され、本格稼働への移行が図られたことは地域協力の進展に向けた大きな成果。</p> <p>本格稼働に際し、EANETの枠組みが従来のモニタリングのみから、排出源目録づくりやモデリング等の対策の樹立に用いることができる科学的調査研究まで含み得るものとなるなどの進展。</p> <p>しかしながら、欧米並のモニタリングを実施し、東アジア地域全体としての酸性雨の状況を明らかにするためには、さらに参加国におけるキャパシティ・ビルディング(技術能力向上)が必要。</p> <p>また、国際協調による東アジア地域全体の酸性雨対策の枠組みづくりのためにはモデリング等による更なる科学的基盤づくりが必要。</p> <p>現在の10カ国から段階的に参加国を拡大し、東アジア地域の全ての国をカバーすることが必要。</p> <p>将来的には、酸性雨対策だけでなく重金属やPOPsをも対象にする越境大気汚染に係るネットワークへと拡大する方向での検討が必要。</p>
4 予算事項名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東アジア酸性雨モニタリングネットワーク拠出金</li> <li>・ 東アジア酸性雨モニタリングネットワーク推進経費</li> <li>・ 東アジア酸性雨対策調査研究費</li> </ul>
5 対応副施策	

